

令和3年2月24日

世田谷区立松沢小学校
校長 宇都宮 聡 様

世田谷区立松沢小学校
学校関係者評価委員会
委員長 北野 秋男

令和2年度世田谷区立松沢小学校 学校関係者評価委員会報告書

令和2年度学校関係者評価の結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

学校におかれましては、この報告書を今後の学校運営にご活用いただき、より一層児童の健やかな成長が図られますようお願い申し上げます。

1 調査実施時期・対象(回収数・率)

(1) 実施時期 令和2年12月4日から12月14日まで

(2) 実施対象 児童(5・6年生) 保護者(全児童数) 地域(学校協議会委員他)

(3) 回収数(回収率) 児童295人(98%) 保護者750人(86%) 地域52人(61%)

2 アンケート調査結果(別紙)

3 考察

(1) 児童対象(5年、6年対象)

評価の高いまたは増減が顕著な設問項目

設問	評価委員のコメント
安全に気を付けて生活をしている。	コロナ禍の特別な環境で学校生活をおくるにあたり、安全に対する認識が高まった。(肯定評価が一番高い83.2%)
先生は、映像やタブレットを工夫し、わかりやすい授業をしている。	従来同様ではなく、より分かりやすく児童が興味をもてる授業スタイルへの取り組みが評価された。今後も継続してICTの利点を生かした指導が必要。(肯定評価82%)
相手の気持ちを考えて行動している。	コロナ感染予防対策をはじめ、日常生活で他者を思いやる機会も増えたことで意識が高まった。(肯定評価80.6%)
区立中学に関する情報が提供されている。	「学び舎の中学校に行ったり、中学生が来る機会がある」の設問が無くなるなど、区立中学との接触が極端に減少した事実はある。しかし、昨年までの質問項目「『学び舎』の区立中学との交流が活発である」でも「否定的回答」「わからない」が6割超を占め、今年度も同様に「否定的回答(28.9%)」「わからない(31.3%)」が6割となった。 区立中学の認知に関する項目に改善がみられない。情報提供のあり方の抜本的な見直しが必要。

1 学習指導について

「先生は、映像やタブレットを工夫し、わかりやすい授業をしている(82%)」「授業では、話し合ったり発表し合ったりする機会がある(79.1%)」など、授業において教師と児童が互いに活発かつ意欲的に活動していることが読み取れる。引き続きの指導をお願いしたい。

2 生活指導について

「私は、先生が指導したルールについて理解できる(72.1%)」「先生は、学校のルールを児童に考えさせて指導している(69.5%)」「私は、学校のルールについて考えて行動している(66.8%)」など、“児童自らが、学校のルールを理解し、考えて、行動している”と7割の児童が認めた。児童の側に立った丁寧な指導の賜物であろう。

3 学校行事について

「学校行事は楽しい(76%)」「学校行事は達成感がある(68.5%)」であり、学校行事に対しては高い評価が続いている。昨年の項目で「先生は私たちのやる気を大切にした指導をしている(63.1%)」が、今年の項目の「先生は、児童の意欲を大切にしている(68.1%)」となり5ポイント改善した。

4 キャリア教育について

今年度からの新設項目である。「目標を持ち、その実現に向けて努力している(73.1%)」「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある(62.2%)」となり、将来に対して何らかの目標をもち、それに向けて準備をしている姿勢が伺える。その一方、直近の中学進学を選択肢のひとつであろう「区立中学に関する情報が提供されている(39.7%)」との評価が低い。区立中学に関する情報不足に関しては早急な改善をお願いしたい。商店街や地域団体との地域の様々な取組みをうまく利用した中学との交流なども改善になり得ると考える。

5 先生について

今年度の「先生たちは、ていねいに指導してくれている(77.9%)」に対して、昨年度項目は「先生はいつも熱心に教えてくれる(61.9%)」となり、16ポイントの改善がみられた。また、「先生たちに相談できる(56.1%)」の昨年度項目は「先生は、よく私の話を聞いてくれる(57.2%)」であった。この項目は変化がなかった。「あまり思わない(15.3%)」「思わない(17.3%)」が3割強である。一人でも多くの児童が相談しやすい環境を整える必要がある。

6 学校全体のことについて

「学校生活は楽しい(75.5%)」は昨年比約7ポイント増となった。コロナ禍で登校が例年より少なくなったが、逆に学校で先生や友達に会え、活動できることに新たな喜びが芽生えたと思われる。難しい時期であったにもかかわらず、このポイント増は学校の大切さを示している。また、「私は、家庭で宿題やその他の学習をしている(79.8%)」「私は、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる(71.1%)」は、コロナ禍でも7割以上が学習と運動に持続的に取り組んでいたことが伺える。「松沢小学習スタンダード」が身に付くように努力している(61.2%)」について、学校生活を送る上で大切な「学習スタンダード」の一層の活用が必要であろう。

7 自分のことについて

「安全に気を付けて生活をしている(83.2%)」（＝いのちの大切さ）、「相手の気持ちを考えて行動している(80.6%)」（＝他者へのおもいやり）、「気持ちのよいあいさつをするようにしている(69.6%)」（＝あいさつ）、「運動に意欲的に取り組んでいる(67%)」（＝うんどう）の各項目では、概ね 7 割以上の高評価となった。コロナ禍の中で、不自由なことが多かったにもかかわらず、児童たちは先生方の指導の下、命の大切さを学び、思いやりの気持ちを育んだのではないか。教職員の皆さまへの感謝を伝えると共に、引き続きの指導をお願いしたい。

（評価委員：吉見明樹・新野隆憲）

（2）保護者の方々対象

評価の高いまたは増減が顕著な設問項目

設問	評価委員のコメント
本校は映像やタブレットを工夫し、わかりやすい授業をしている	肯定的回答が 4 割、「わからない」が 3 割であった。タブレットはプログラミングや必要に応じて先生の PC 画面、生徒のノートの共有などにも活用されているが、保護者からは状況が見えにくかったと思われる。
学校行事は子供にとって楽しい	9 割超えの驚くべき高評価が継続。コロナ禍でも工夫しながら思い出に残る運動会が開催されたことが評価された。
本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している	9 割強と高評価。休校や予定変更など公開すべき情報が多々生じる中、保護者からホームページにアクセスする機会が格段に増え、情報を得ることが可能となった。
本校の学校生活は、子供にとって楽しい	前年度の 8 割 5 分から 9 割弱にアップ。授業や行事、野菜作りなどの課外活動に取り組む教員や地域の方の支援があった。

1 学習指導について

（項目自体の入れ替えの影響は否定できないが）全項目 8 割前後の高評価を継続していた前年度までと比べ、肯定的回答が 4～7 割にとどまっている。「本校は、黒板の書き方などやプリントなどを工夫している」は「わからない」が 3 割程度。「お便り」や「メール」での情報提供は十分なされていたと思えるが、学校公開や保護者会の機会もなく不安を感じた保護者も多かった。一方で「本校は、授業の内容を意欲的に学ぶために工夫している」は 7 割強。学校公開時は、先生の PC 画面や生徒のノートなどをモニターで映し出す書画カメラの取り組みも多く見られた。コロナ等で状況が劇的に変化した中でも、柔軟な授業対応を行う先生方に感謝しつつ、継続して情報提供を求めたい。

2 生活指導について

前年度とほぼ同様の内容である「本校は、学校のルールについて子供に考えさせる指導をしている」は、前年度の肯定的評価が 8 割を超えが、今年度は 7 割弱程度にとどまった。「わからない」も 2 割を超えた。学習指導と同様、保護者が学校を直接訪れる機会がないことも影響したとみられる。

3 学校行事について

「学校行事は子供にとって楽しい」について、前年度の 9 割 5 分からはやや落ちたものの、9 割 3 分超の驚くべき高評価が継続された。コロナ禍でも工夫しながら思い出に残る運動会が開催されたことが評価された。従来の子供まつり、展覧会、音楽会といったイベント復活への期待も高まっている。

4 キャリア教育について

今年度から新設されたカテゴリ。「本校の教員は、子供に目標を持たせ、その実現のために支援している」への肯定的回答が6割強、「本校では、子供の生き方や将来のことについて考える授業がある」は5割強。一方で「わからない」が2割強から3割近くと目立った。授業・科目ごとの目標支援は目標設定カード等で適切に行われている印象を持った。将来の目標を見据えた課題なども見受けられるが、学校公開等の機会の減少で不明瞭になっている可能性がある。1学期末に配布された「キャリアパスポート」も同項目に関連する取り組みであるが、その関連が保護者にはわかりにくかった印象もある。

5 教職員について

「本校は、子供のことを相談しやすい」は肯定的回答が7割強と前年と変わらない。コロナ禍の中でも前年維持の体制が維持されたことに感謝したい。

6 全般について

新設項目「子供は、家庭で自主的に学習をしている」では否定的回答が7割近くに達し、改めて家庭での課題が浮き彫りとなった。コロナ禍による外出自粛が影響していると思われる。

7 学校からの情報提供について

「本校は、学校だより・学年だよりなどで、保護者に情報を提供している」に対する肯定的回答は、昨年度の8割強に対し、9割強に上昇した。また「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している」も9割強となった。休校や予定の変更など公開情報が多々生じる中、保護者のアクセス機会が格段に増えた。きめ細やかに対応に深く感謝したい。『学び舎』について情報が提供されている」は5割強で前年度よりやや低い。前年度に続き赤堤小学校との交流減少が一因であろう。

8 地域との連携について

「本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている」「本校は、地域の活動などに協力的である」は、前年度で9割前後と高評価であったが、本年度は7～8割に下降。コロナ禍による外出自粛の影響など、地域連携の機会が減少したことが背景にあるとみられる。

9 学校の安全性について

前年度に続き、安全性への評価は非常に高い。避難訓練の充実や緊急連絡メールを活用し、大切な情報を速やかに提供されていることへの安心感が高評価につながっている。

10 学校運営について

「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」は、前年度からやや上昇し、8割強の高評価であった。状況が激変する中、先生方、学校協議会、学校運営委員の皆様の支援に感謝したい。

11 松沢小独自項目

いずれの項目も肯定的評価が5～6割であった。引き続き家庭でも指導していきたい。

〈全体的なコメント〉子供の家庭での自主学習やあいさつなど、家庭での指導を問われる項目で否定的回答が多かった。引き続き保護者として意識し、向上を目指したい。また授業の進め方、内容などに「わからない」という回答も目立った。学校行事や学校の安全性ほか、学校に関する全体的な情報提供は高評価が多かった。コロナ禍で状況が変わる中、対応してくださる先生方や地域の関係者の方々に感謝しつつ、今後もわかりやすい情報提供をお願いしたい。

(評価委員：黒川美美子・野中真規子)

(3) 地域の方々対象

評価の高いまたは増減が顕著な設問項目

設問	評価委員のコメント
子供たちは、楽しそうに学校に通っている。	肯定的評価98.1%。ほぼ10割に近い高評価。通学できる喜び、先生や友達に会える喜びを児童の様子から伺えることは非常に好ましい。地域の方々には、これからも温かく見守ってほしい。
子供たちは、挨拶ができる。	肯定的評価76.9%。学校や家庭の指導の成果が結果に表れた。一方、少数の否定的評価は21.2%。アイコンタクトや黙礼など臨機応変な挨拶の活用も引き続きご指導願いたい。
学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている。	肯定的評価80.4%。日々更新されていることもあり、高評価となった。回答「わからない」は19.6%で昨年より半減し、否定的回答は0%となり、大きく改善された。

1 生活指導について

地域の方々が見る機会が多いのは、登下校の時間である。児童は概ね交通ルールを守っている。今後も学校からの定期的な指導と地域の多くの目で児童の見守りを継続することが大切である。

2 学校行事について

今年度は行事の縮小や中止が相次いだ。地域の方の参加機会も例年より少ないが、学校公開や体育学習発表会が念入りな準備の下安全に開催され、高評価となった。

3 学校からの情報提供について

今年度は、特にスケジュールの変更や訪問の際の注意事項等、大量の連絡が必要であった。学校の的確な情報提供により、地域の方々からの評価は高い。また、ホームページの情報発信については、校内の様子が日々更新され、おおむね高評価である。「わからない」回答が昨年より半減し、否定的回答はなくなり大きく改善された。教職員の方々のご尽力に感謝する。

4 地域との連携について

下高井戸商店街振興組合は、街頭フラッグの制作を提案。組合よりフラッグのキャンバスおよび絵筆とアクリル絵の具を提供した。1学期に6年生児童が図工科で作品を制作し、完成品を街路灯に設置・掲揚し、商店街街路の雰囲気をもくした。また2学期には、下高井戸商店街は2年生児童の生活科校外学習における店舗訪問や質問に協力した。学校運営委員会は、数年にわたり「学校運営委員会だより」を発行し、地域にも配布し活動を報告しているが、アンケート結果ではまだ3割ほどが「否定的」もしくは

は「わからない」と回答している。様々な行動制限で例年のイベントが中止となったが、地域として可能な限りの相互交流と支援を行っている。目に見える活動に対する評価は非常に高いが、地域活動運営の中核となる学校運営委員会の名称を知らない方もいるようである。名称が浸透するよう、学校の広報でも取り上げる機会を増やすべきである。

5 学校の安全性について

今年度は、特に新型コロナウイルス感染予防対策や情報等が十分に提供され、高評価となった。

6 学校運営について

コロナ禍で非常時の運営となったが、良い評価を得た。今後も地域運営学校として、地域の意を取り入れた事業活動の継続が必要である。

7 松沢小独自項目

「子供たちは、挨拶ができる」の評価は8割に達している。学校や家庭の指導の成果である。一方、少数ながら否定的評価もある。マスク着用で表情が読み取りづらい昨今だが、アイコンタクトや黙礼など臨機応変な挨拶の活用も継続的な指導が必要である。「子供たちは、楽しそうに学校に通っている」は、ほぼ10割に近い高評価となった。非常事態が続いているが、通学し、先生や友だちに会える喜びが児童の様子からも伺えることは非常に好ましい。地域の方々の変わらぬ見守りが重要である。

〈特別コメント〉本校は商店街の中心とも言える位置にあり、町会、自治会、多くの商店街関係者の方々や学校関係の委員、近隣の幼稚園、保育園、介護団体などに日頃からご協力をいただいています。皆様からの学校へのご支援に感謝申し上げます。

(評価委員：石井健夫・川村由美)

Ⅲ まとめ

今年度の特筆すべき事柄は、各委員の指摘でも繰り返された「コロナ感染拡大」に伴う様々な制約や行事・活動の削減などであった。したがって、評価委員の所見の中でも「コロナ禍」の影響や弊害による評価の低下を指摘するものが多かった。次年度には、このコロナ感染が終息していることを願うが、逆に、依然としてコロナ感染への不安や恐怖に苛まれている可能性も否定できない。本年度の評価委員の所見が、今後のコロナ禍の中での対応へのヒントになることを願ってやまない。

さて、本年度のアンケート結果の評価は、「評価が高い項目」と「評価が低い項目」に区分して、それぞれの評価内容を総括した。特に〈表-1〉と〈表-2〉は、「児童」「保護者」「地域」のアンケート結果の項目の中で、最も顕著な結果が現れたものである。「評価が高い項目」は、松沢小学校の最も優れた特色であり、「評価が低い項目」は次年度における優先課題となるものである。

1 今年度の評価結果に関する成果と課題

〈表-1〉【評価が高い項目】

	設問	評価委員のコメント
児童	安全に気を付けて生活をしている。	コロナ禍の特別な環境で学校生活をおくるにあたり、安全に対する認識が高まった。(83.2%)

	先生は、映像やタブレットを工夫し、わかりやすい授業をしている。	より分かりやすく児童が興味をもてる授業スタイルへの取り組みが評価された。(82%)
保護者	学校行事・情報提供に関して。	9割越えの高評価。コロナ禍の中での運動会やホームページなどによる情報提供が評価された。
地域	子供たちは、楽しそうに学校に通っている。	ほぼ10割に近い高評価。通学し、先生や友だちに会える喜びを児童の様子から伺えることは非常に好ましい。継続的な温かい見守りが大切。

前年度は「映像やタブレットを工夫し、わかりやすい授業をしている」に対する否定的回答「あまり思わない」「思わない」(45.1%)と「わからない」(18%)が6割超となり、「継続的な交流活動の中での抜本的な見直しを望む」との指摘がなされた。本年度は、児童がより分かりやすく、興味関心を持てる授業スタイルへの取り組みが評価され、82%の肯定的評価がなされた。コロナ禍の中での先生方の取り組みへの評価がなされたと同時に、DVD・デジタル教材などの視聴覚型の授業が児童の興味関心を引いたとも考えられる。今後とも継続的な改善、取り組みが必要となろう。同じく、コロナ禍の中での学校生活や行事などに対する保護者や地域からの「安全性」と「情報提供」への信頼も高まった点が特筆される。

〈表-2〉【評価が低い項目】

	設問	評価委員のコメント
児童	区立中学に関する情報が提供されている。	今年度も昨年同様に、学び舎の中学校との交流に関して「否定的回答(28.9%)」「わからない(31.3%)」が6割に達した。
保護者	本校は映像やタブレットを工夫し、わかりやすい授業をしている	肯定的回答が4割、「わからない」が3割であった。タブレットはプログラミングや必要に応じて先生のPC画面、生徒のノートの共有などにも活用されているが、保護者からは状況が見えにくかったと思われる。
地域	特になし	特になし

前年度同様に「評価が低い項目」は、児童の「区立中学に関する情報が提供されている。」保護者の「本校は映像やタブレットを工夫し、わかりやすい授業をしている」であった。地域からの指摘は特になかった。次年度の改善項目として検討してもらいたい。

2 各委員からの感謝と激励の言葉

各委員からの評価の中で、建設的意見も多く出されたが、同時にコロナ禍の中での教職員への感謝や激励の声も多かった。例年の評価においては、次年度に向けた更なる改善や検討を求める評価委員の声を紹介してきたが、過去に経験のないコロナ禍の中で児童の教育や安全を守り抜いて頂いた松沢小学校の教職員への感謝を込めて、本年度は例外的に激励の声を紹介することとしたい。

*松沢小学校では「授業において教師と児童が互いに活発かつ意欲的に活動している」こと、「児童の側に立った丁寧な指導」が児童からも保護者からもなされている。

*コロナ禍でも、「安全・安心」して学校に登校ができ、先生や友達に会え、活動できることに新たな喜

びが芽生えたと思われる。児童にとっても、保護者にとっても学校の大切さが再認識されている。各種イベント復活への期待も高まっている。

＊新設項目となった「キャリア教育」については、内容的な難しさもあるが、児童自身も保護者も「目標を持つこと」「実現に向けた努力」「自分の生き方や将来を考える授業」の大切さを認識し、啓発されている。

＊コロナ禍の中で、「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」点に関して、高評価がなされた。先生方、学校協議会、学校運営委員の皆様の支援に感謝したい。

＊コロナ禍の中で、学校側の的確な情報提供により、保護者・地域の方々からの評価は高い。ホームページの内容も日々更新され、高評価である。教職員の方々のご尽力に感謝する。

3 総合所見

2020年度は「異例づくめの1年間」であった。教育の営みは、変わらぬ生徒指導、学習指導、学校運営などが必要な反面、その中でも確実な改善や進歩も求められる。しかしながら、本年度に限って言えば、色々なことが前例のないままに、迅速に、かつ適切に対応することが求められた。校長・副校長先生をはじめ、教職員の皆様の努力や苦労は並大抵なことではなかったと思われる。2021年度は、コロナ感染拡大が終息し、以前のような「普通の」学校教育の姿に戻ることを願うが、コロナ感染との「闘い」は今後も続きそうである。

そうした中で2021年1月下旬に行われた学校公開・授業参観の企画は、松沢小学校の前向きな教育方針と姿勢を示しただけでなく、同時に児童・教職員・保護者・地域の方々の変わらぬ姿を垣間見ることができた。授業担当の先生方の丁寧で熱心な授業、初対面であっても児童からの「こんにちは」という元気な挨拶、「お久しぶりです」といった地域の方々の交流など、コロナ禍の中でも安全・安心な学校の中での人々の交流を確認することができた。こうした人々の姿・活動・交流を守り、継続していくことが地域学校の使命であろう。

世田谷区松沢小学校 学校関係者 評価委員会

委員長 北野秋男

委員 石井健夫・新野隆憲・吉見明樹・川村由美・黒川美美子・野中真規子